

---

” I Love You!&quot;**をなぜ言うの？**

瑞希 祐作

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

” I Love You ! ” をなぜ言うの？

### 【コード】

N0506G

### 【作者名】

瑞希 祐作

### 【あらすじ】

米国人の男性は彼女や奥さんにいつも” I Love You ! ”を言い続けるのでしょうか？日本人男性の場合と比較して考察してみました。

米国人の男性はなんでいつも自分の恋人や奥さんに“ I Love You!”を言うのでしょうか？ いや言い続けなければならぬのでしょうか？ そういうことをみなさんは考えたことがありますか？

日本人の男性の場合、まず面と向かってそういう言葉を口にすることはありません。せいぜい最初に女性を口説くときとか、プロポーズでそのようなしゃれたことをのたまうことはあるかもしれませんが、それ以外にはまずしないと思います。彼女からそういう言葉をせがまれるようであれば、「そんなの恥ずかしくて、言えるかい！」というのがオチです。下手をすると、つきあってから結婚するまで「愛してる」とかいうストレートな言葉を聞くことなく結婚してしまう人もいるでしょう。

日本語の場合、例え「愛してる」という表現を使わなくても、湾曲的な言い方から相手に自分の気持ちを伝えることができます。それだけ豊富な表現の仕方が存在するのです。ところが、英語の場合はそういうまわりくどい言い方というか、そういうことを匂わせる表現というのがあまりありません。というよりも、そんなまわりくどい言い方をするのではなく、「もつとストレートにはつきりと意思を伝えて欲しい！」と相手から言われてしまうのです。この辺には日本語と英語の根本的な文化の違いが存在するからだと思います。

ではこういう文化の違いは何故起きるのでしょうか？

まず第一に、日本語と英語には「表意文字文化」と「表音文字文化」の大きな違いがあります。日本語はひらがな＋カタカナ＋漢字

から成り立っています。日本人として満足かつ十分な表現をするためには、2,000語前後の文字を覚えなければなりません。英語の場合は26の記号文字だけです。漢字に関して言えば、更に一字ごとに読み方も複数あり、また文字自体に意味もあります。アルファベットののように1記号文字と、1文字に複数の発音と意味を持つ漢字とひらがな・カタカナを持つことで、日本語は途方もない数字の表現力を有することになります。しゃべるだけだったら、同じかもしれません、そういう会話の中から漢字の文字が頭に描かれ、更にその意味を考えることになるわけですから、たった一言でも日本語と英語ではその複雑さに格段の違いが存在します。英語の場合記号文字の組み合わせですから、どんなに組み合わせても一回に発音できる文字の長さにも限界がありますし、その限界は必然的にボキャブラリーの限界・意味をもつ言葉の数の上限を意味します。組み合わせでの意味に限りがあるわけですから、どれだけ文字を駆使しても「表現力」という点では、日本語にはかないません。日本語だったら、いろんな表現ができたとしても、英語では自ずと表現が限られてしまうのです。

第二に、歴史的な背景があります。日本という国は非常に長い歴史を有する国です。ところが、米国は建国して300年弱の歴史しかありません。おまけに前者が島国で単一民族国家（ちなみに世界では他に単一民族国家でこれだけ長い歴史を持った国はありません）であり、後者は移民を中心とした他民族国家です。こういう歴史的背景の中では、日本人は共通のバックグラウンドを持つことが非常に簡単です。だれでも同じような考え方ができる、共通の意識を保てるということは、お互い同士の認識・意思疎通を容易にすることが可能なのです。「言わなくなつてわかるだろう？」とか「察してくれよ！」という言葉は日本人だからこそ通じる言葉で、他の国の人にはなかなか理解できないことだと思えます。一方米国の場合、前にもいいました通り移民をベースに成り立っている国家です。ま

ず同じ国の中で生活を始める前に、全く文化の違う人間と意思疎通を図らなくてはなりません。英語という共通の言語しかない中で、その理解を始めるにはまず相手に「自分自身を理解してもらう」必要が出てくるのです。どうにかして、なんとしてでも自分のことを相手に理解してもらわなければならないのです。それができなければ、何もはじめられません。したがって、彼らのまず最初の行動は「英語を使って、自分自身の言いたいことをはっきり伝え、相手に理解してもらう」ことから始まります。要は通じれば良い、通じるためのみの言語が必要なのです。そしてもちろんこれは単に取引などだけにとどまらず、恋愛の手段としても同じです。自分が「相手を好きだ!」とはっきりわかってもらわなければ、決して恋愛に進まないのです。共通の歴史的背景・バックグラウンドがあればいろいろな言い回しで相手に気に入ってもらえるのですが、米国ではまず「自分の気持ち」をわかってもらわないと話にならないので、ストレートな表現が優先されるのです。

第三に、文化的な背景の違いがあります。日本という国は何事に置いても組織化されています。だから突拍子もないこととか、普段のルールと違うやり方を極端に嫌うのです。「出る杭は打たれる。」ということわざにあるように、自分勝手なやり方、強い自己主張は理解されません。したがって誰もが上や下や横をみながら、どうしたら相手の気分を損なわないようにうまくやれるかということを考えがちです。こういう考え方は、人間関係のつながりをより密着させ、理解しあうことにより「共通の意識基盤」を作ることになります。一方米国の場合、個人の意思が極力尊重されます。「自分の意見を主張し、相手の意見を聞き入れ、その中でベストな選択をしていく。」という基本理念があるわけで、この考え方からすれば、組織的な考え方をする前に、「まずあなたは何を考えているのか?」ということを知られることになります。こういう基盤があるわけですから、米国では自ずと自分自身をアピールしなければなりません。

好きな彼女に対してもしつかりと、“ I Love you!”といわなければならないのです。

こういうこともあり、日本人に比べると米国人のほうがはつきりとストレートに愛情表現をします。普段こういう扱いになれていない日本人女性からすれば、米国人のストレートな表現に参ってしまうのもわからないではありませんが・・・。

さて、同様なことがメンテナンスの部分でも出てきます。日本人なら「釣った魚にえさをやらない」と言ったように、彼氏・彼女の関係になったり、結婚してからもそんなに「愛情表現」を相手に対することはありません。これはやはり「私の気持ちはわかってるだろう？ そんなの聞くだけ野暮だよ！」という考え方が根底にあるからです。男も女も長い日本での組織的教育の中で、そのような素養を身につけさせられているわけです。だから、お互いにわかりあっているのです。いや、わかりあっているふりをしているのです。わかりあったふりをしているというのは、昨今の離婚件数の増加は明らかにこのようなお互いの理解が不十分であったが故、時間が経つと「夢から醒める」ことを意味しているのです。そう考えるとストレートな愛情表現でのメンテナンスは日本人には必要なのかもしれません。

ところが米国人の場合は、お互いに自分を主張しないとわかってもらえないわけです。それも一回だけではダメなのです。というのも、共通のバックグラウンドが存在しないわけですから、相手の考えていることが常にわからないのです。そして常にそういう状態にあるということは、相手に対する自分への考え方に始終疑念が生じる可能性があるということなのです。これを打破するためには、常に愛してる、愛されているというメンテナンスを継続しなければならぬのです。だから、彼らはしょっちゅう彼女や奥さんに電話

をかけまくるのです。日本人の男性だったら、「なんて面倒くさいことをするのだ？」というかもしれません。でもこれをしないと、彼らは相手からの信頼を得られないのです。

よくある光景ですが、米国人男性は夜昼かまわず彼女や奥さんに電話をしています。大事な仕事や楽しい宴席でもそうです。そういうのを見ていると、「この人も大変なんだなあ？」と同情してしまいます。でも彼らからすればこういうメンテナンスは義務であり、相手からの信頼を受けるための必要不可欠手段なのです。こういう風に考えると、「私は日本人に生まれてよかったなあ・・・。」としみじみ思うことが度々です。もしあなたの周りにそういう米国人を見かけたら、きつと彼らも苦勞をしているんだと思ってください。

こういつ風になると、彼らを見る目も少し変わってきませんか？

(後書き)

<http://blog.goo.ne.jp/aiford/>  
で随想録を随時Updateしています。もしよかったらいらんに  
なってくださいね！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0506g/>

---

”I Love You!”をなぜ言うの？

2010年10月25日21時38分発行